

1 大気・水環境計画

▶ 詳しくはこちら 



(1) 計画の位置づけ

大気・水環境計画は、市総合計画で定める都市像「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」を環境面から実現していく役割を担い、環境行政を総合的かつ計画的に推進するための基本指針である環境基本計画が掲げる環境要素のうち、大気や水などの環境保全分野の考え方や目標、施策体系、具体的な取組を示し、施策の推進を図るための個別計画として位置づけています。

(2) 対象

大気環境（大気、騒音、振動、悪臭）、水環境（水、土壌、地盤）、化学物質（大気や水などの環境中に含まれるもの）を対象としています。また、大気や水などの環境に関する市民実感の向上をめざす取組を推進します。

(3) 計画の期間

令和4（2022）年度から令和12（2030）年度まで

(4) 施策の体系

基本施策

安全で良好な環境を保全する

基本施策 I - 1

大気や水などの環境保全

【環境保全の基盤となる取組】



基本施策 II - 1

環境配慮意識の向上



基本施策 II - 2

多様な主体との協働・連携



基本施策 II - 3

事業者の自主的な取組の促進



基本施策 II - 4

環境影響の未然防止



施策

① 大気環境に係る事業所等の監視・指導



② 水環境に係る事業所等の監視・指導



③ 大気環境に係るモニタリングの実施



④ 水環境に係るモニタリングの実施



⑤ 苦情相談及び緊急時等への対応



⑥ 大気や水などの生活環境保全に係る取組の実施



取組を効果的に推進するための2つの視点

複合的な環境施策の展開

主要な環境分野

- 脱炭素化
- 自然共生
- 資源循環

大気や水などの環境に影響する施策との連携

複合的な取組につなげる

地域の特性を踏まえた取組

地域区分

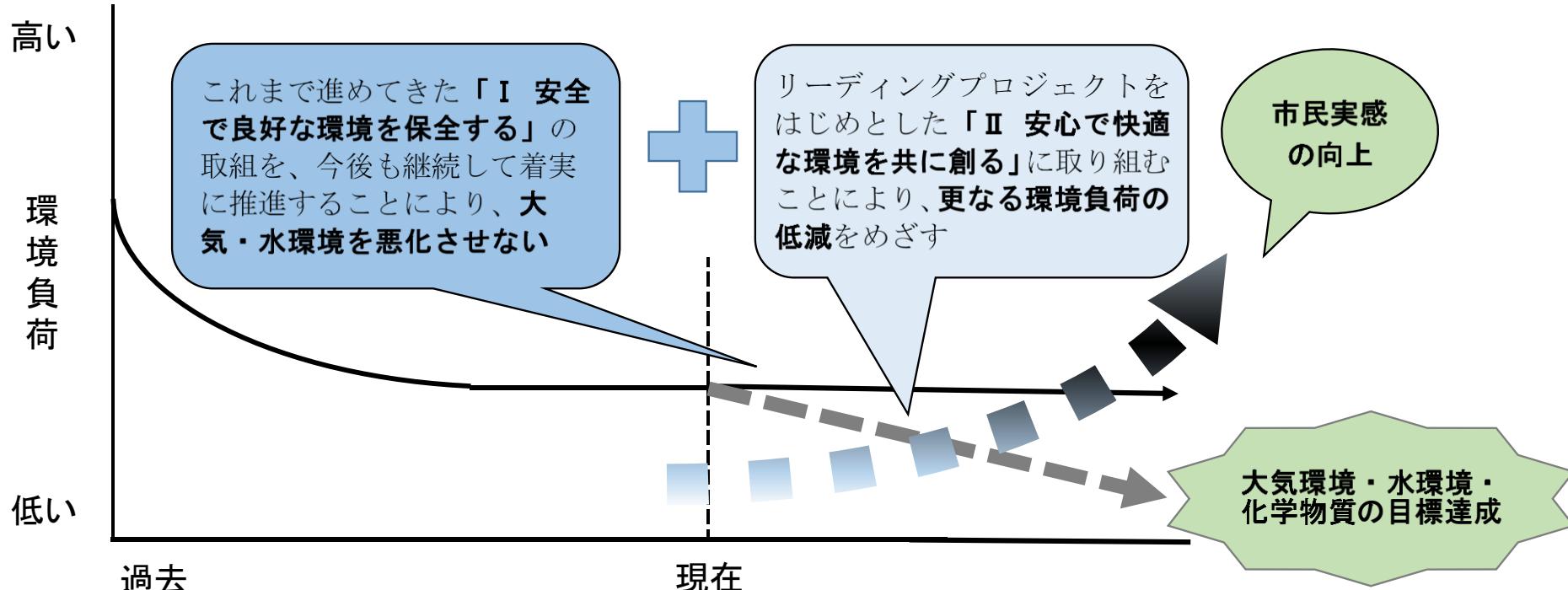
- 南部
- 中部
- 北部

市民実感の向上につなげる

(5) 取組推進イメージ

大気や水などの環境分野には、大気、水、騒音、振動、土壌など様々な要素があり、従来から環境関連法や市条例に基づく取組を進めてきました。これらの主に規制を中心とした「I 安全で良好な環境を保全する」取組を今後も着実に推進します。

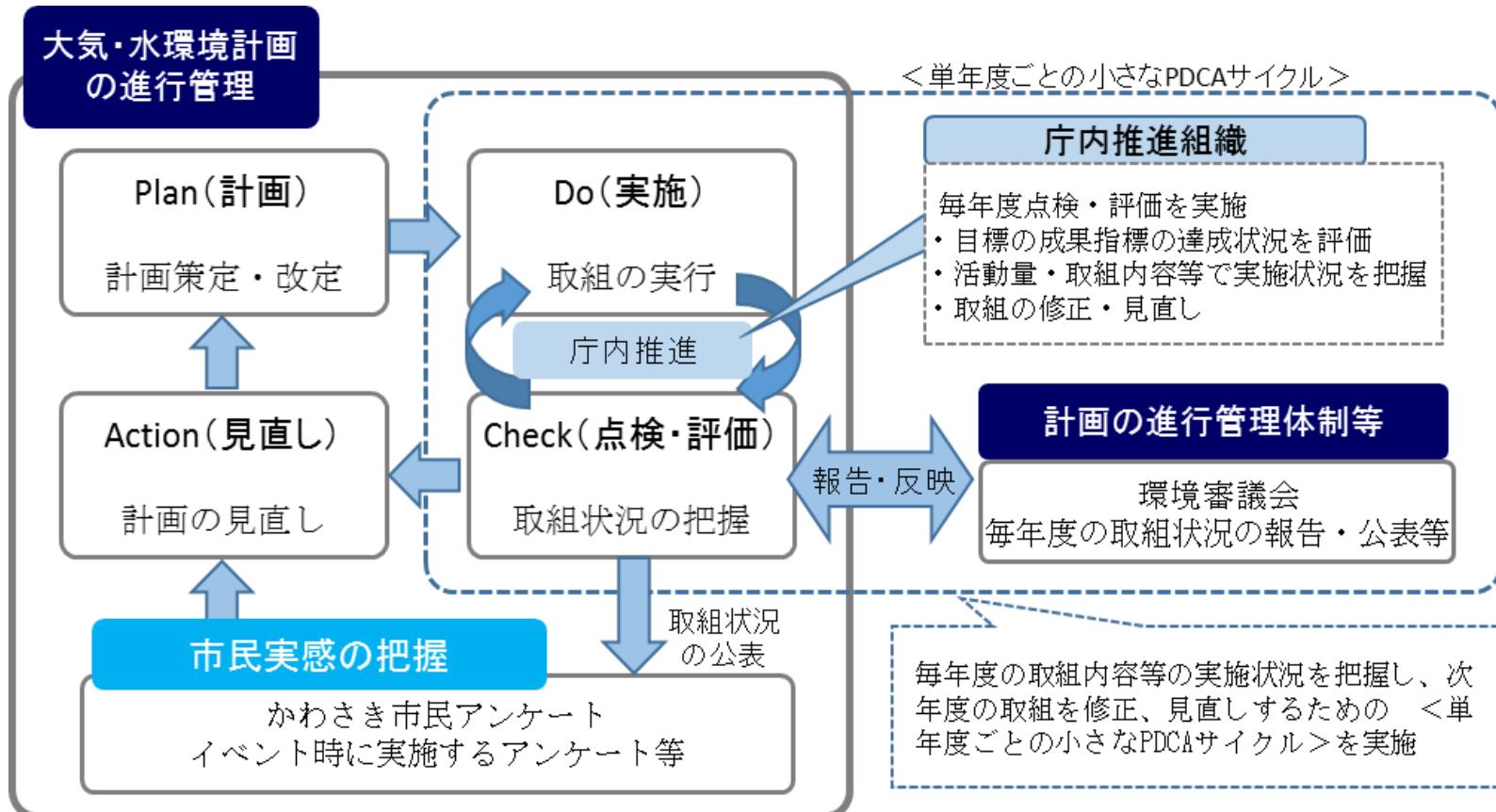
また、更なる環境負荷の低減を図るとともに、市民実感の向上をめざして、「II 安心で快適な環境を共に創る」を推進する上で核となり先導的な役割を果たす取組として、リーディングプロジェクトを設定し、市民や事業者の連携・協力・参加を促進する取組を推進します。



(6) 推進体制及び計画の進行管理

年度ごとに、大気環境・水環境・化学物質・市民実感の成果指標の実績やリーディングプロジェクトなどをとりまとめ、環境審議会に報告するとともに公表します。
(図の<単年度ごとの小さなPDCAサイクル>)。

進行管理を実施する中で、次のとおりPDCAサイクルを基本とした仕組みで取組の実効性を、目標に係る指標の達成状況により評価します。



(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

大気

大気環境の常時監視測定局

大気環境を把握するため、一般環境大気測定局9局及び自動車排出ガス測定局9局において、環境基準等が定められている大気汚染物質の測定※1を実施し、環境基準等の達成状況を確認しています。



○	一般環境大気測定局
1	大師
2	田島
3	川崎
4	幸
5	中原
6	高津
7	宮前
8	多摩
9	麻生
△	自動車排出ガス測定局
10	池上
11	日進町
12	富士見公園※2
12'	市役所前※2
13	遠藤町
14	中原平和公園
15	二子
16	宮前平駅前
17	本村橋
18	柿生

※1 測定局により測定項目は異なります。

※2 富士見公園局は令和7(2025)年3月1日に市役所前局に移転しました。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



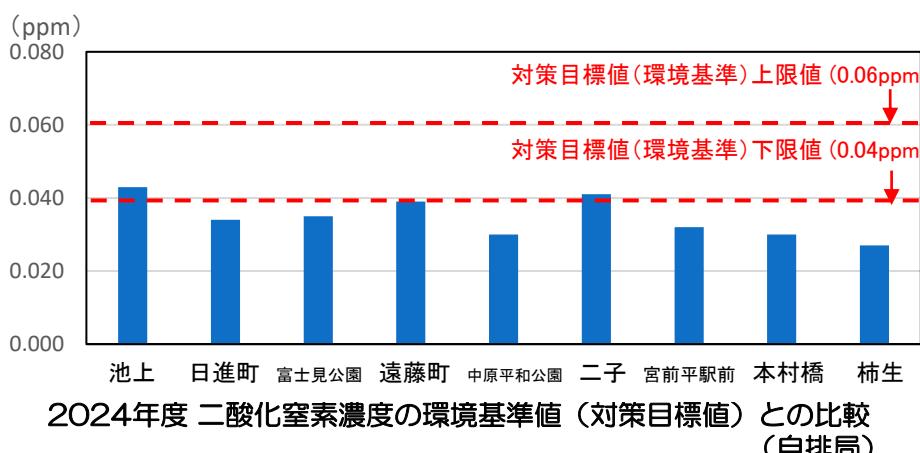
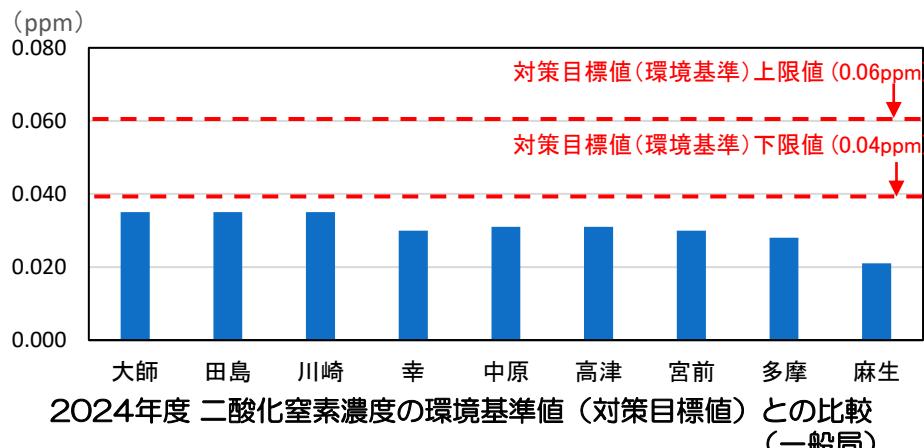
大気環境の目標 二酸化窒素の対策目標値(環境基準)下限値(0.04ppm)の達成

大気環境の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
二酸化窒素の対策目標値(環境基準)下限値(0.04ppm)以下を達成した測定局の割合	58.8 %	88.9%	77.8%

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度の二酸化窒素の対策目標値（環境基準）下限値(0.04ppm)を達成した割合は、88.9%（一般環境大気測定局（以下「一般局」）9局全局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」）7局で達成）で、令和12（2030）年度の目標（77.8%）を達成するなど、順調に推移しています。

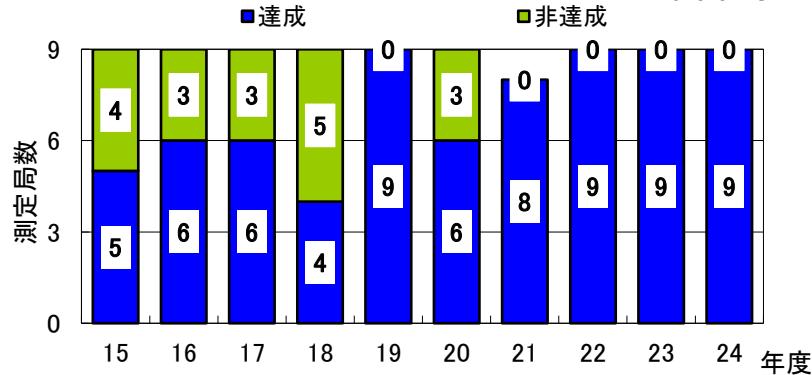


(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

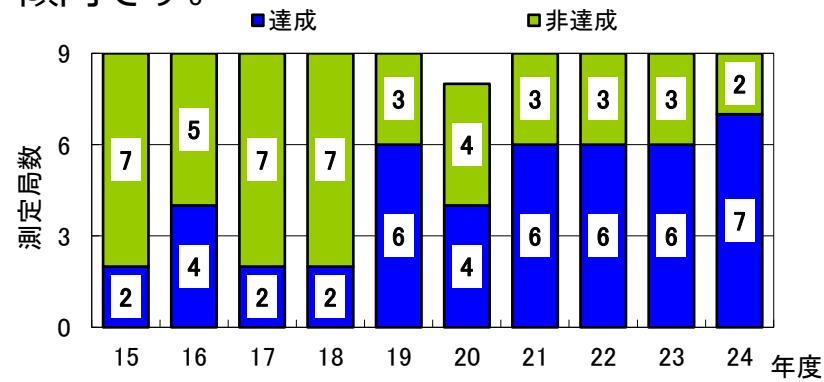
大気

●二酸化窒素の推移

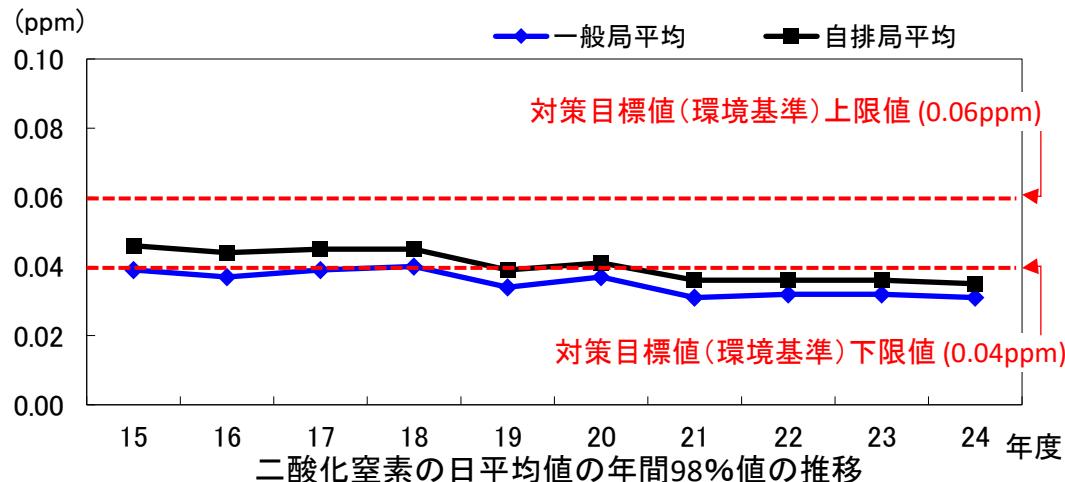
対策目標値（環境基準）下限値(0.04ppm)の達成局数は、一般局では4年連続全局で達成、自排局では令和6（2024）年度に遠藤町自動車排出ガス測定局で初めて達成するなど、**徐々に増加**しています。また、二酸化窒素の日平均値の年間98%値（年間の1日平均値の低い方から98%に相当する値で環境基準を評価）も低下傾向です。



二酸化窒素の対策目標値下限値達成状況：一般局※



二酸化窒素の対策目標値下限値達成状況：自排局※



※測定装置の故障や測定局の移設等の影響で有効測定局数が異なる年度があります。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

大気

大気環境の目標 PM2.5の環境基準の達成維持

大気環境の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
PM2.5の環境基準を達成した測定局の割合	100 %	100 %	100 %

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度は、一般局9局及び自排局8局で環境基準を達成し、令和12（2030）年度の目標（100%達成維持）に向けて順調に推移しています。

令和6年度の測定結果と評価

測定局 ^{※1}	環境基準評価		
	年平均値	日平均値の年間98パーセンタイル値 ^{※2}	評価 ^{※3}
		μg/m ³	μg/m ³
一般環境大気測定局	大師	9.2	23.2
	田島	9.9	24.8
	川崎	9.9	24.2
	幸	8.4	22.6
	中原	8.4	21.4
	高津	8.0	19.7
	宮前	8.0	19.7
	多摩	7.9	19.3
	麻生	8.2	21.3
自動車排出ガス測定局	池上	9.1	22.3
	日進町	9.1	22.2
	市役所前 ^{※4}	(10.6)	(29.2)
	富士見公園	8.3	20.8
	中原平和公園	8.1	21.0
	二子	8.9	21.4
	宮前平駅前	8.4	21.1
	本村橋	8.0	20.7
	柿生	8.9	22.7

※1 令和6(2024)年度現在全17局(富士見公園局は令和7(2025)年3月1日に市役所前局に移転)

※2 日平均値の年間98パーセンタイル値：年間の1日平均値の低い方から98%に相当する値

※3 年平均値及び日平均値の年間98パーセンタイル値の両方に適合した場合に○で表示

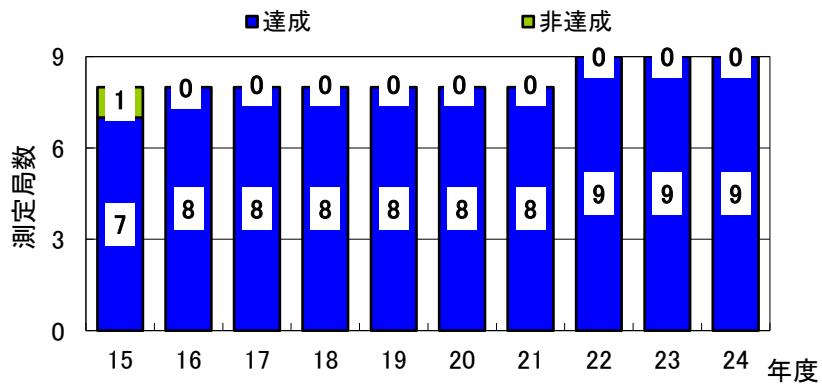
※4 有効測定日が250日に満たないことから環境基準評価を行わない。また、年平均値及び日平均値の年間98パーセンタイル値は参考値として取り扱う。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

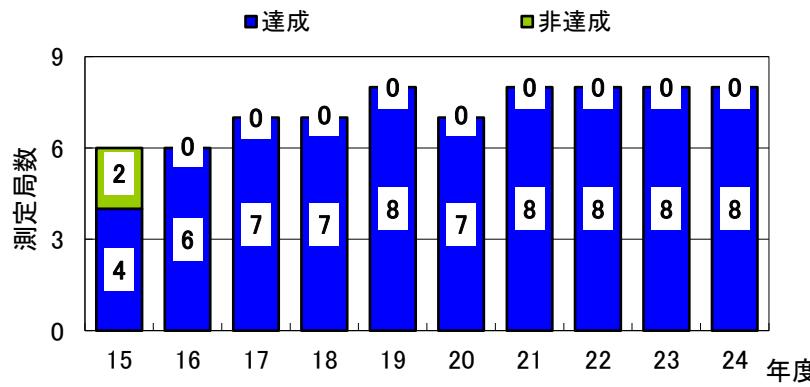
大気

●PM2.5の推移

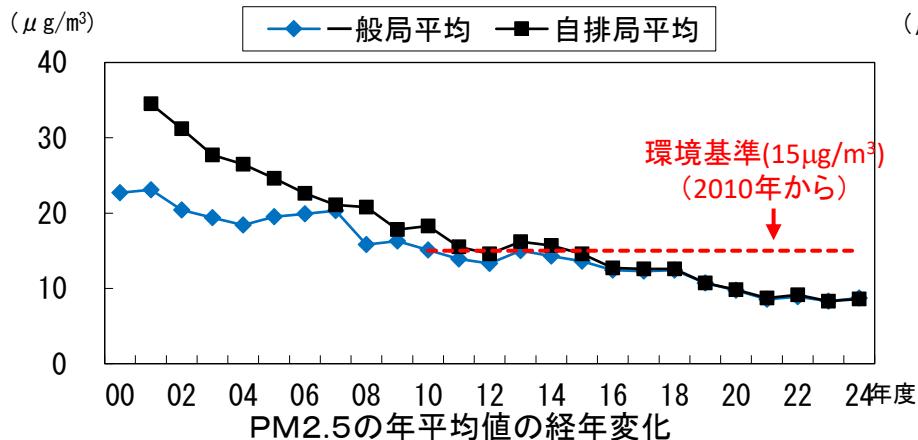
環境基準達成局数は一般局、自排局共に徐々に**増加し**、9年連続で全ての測定局で**環境基準を達成**しています。また、PM2.5の年平均値及び日平均値の98パーセンタイル値も**低下傾向**です。



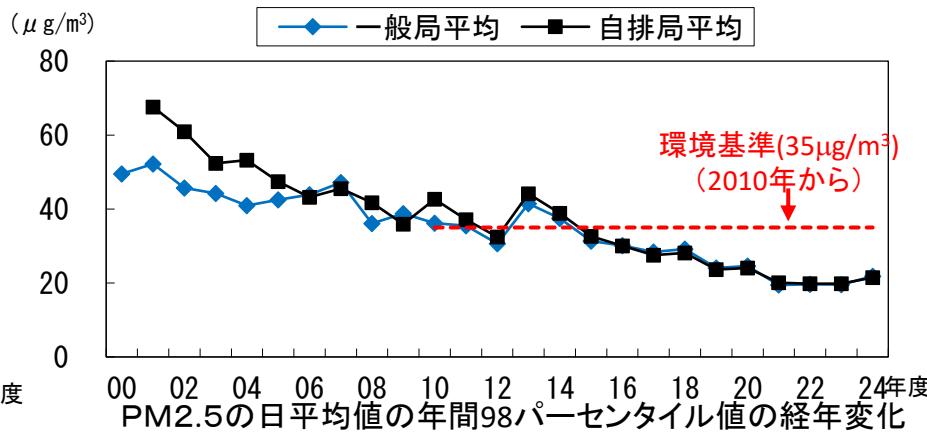
PM2.5の環境基準達成状況:一般局※



PM2.5の環境基準達成状況:自排局



環境基準($15\mu\text{g}/\text{m}^3$)
(2010年から)



環境基準($35\mu\text{g}/\text{m}^3$)
(2010年から)

※ 令和4(2022)年1月に多摩測定局にPM2.5測定装置を新規設置したことにより、令和4(2022)年度から有効測定局数が1局増えています。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

大気

大気環境の目標 光化学スモッグ注意報発令0日

大気環境の成果指標

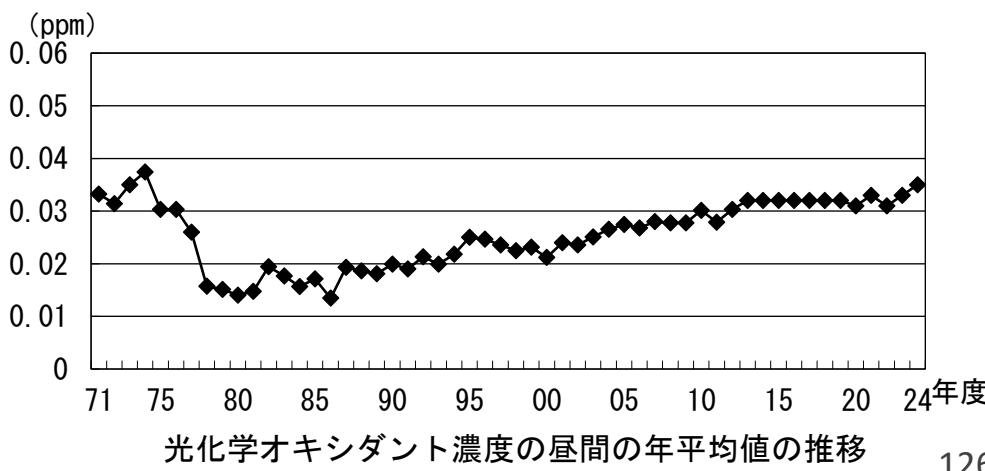
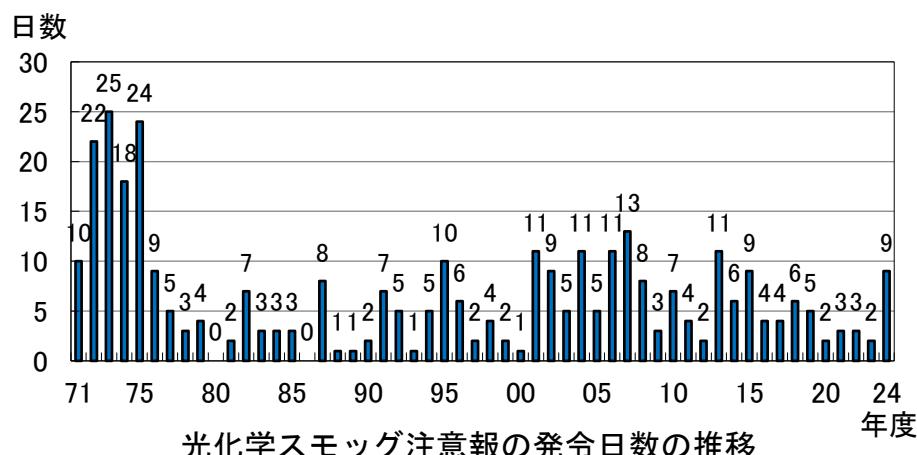
	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
光化学スモッグ注意報の発令日数	2日	9日	0日

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度の光化学スモッグ注意報の発令は9日であり、目標の0日を達成できませんでした。

●光化学オキシダントの推移

光化学スモッグ注意報の発令日数は、近年、年5日前後で推移しています。また、光化学オキシダントの昼間の年平均値は近年は横ばいで推移しています。



(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

大気

大気環境の目標 光化学オキシダント高濃度の低減

大気環境の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
光化学オキシダント環境改善評価指標値※1	0.0106 ppm (2018～2020年度 平均値)	0.0103 ppm (2022～2024年 度平均値)	0.0103 ppm (2028～2030年 度平均値)

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度の光化学オキシダント環境改善評価指標値※1は、0.0103ppmで、令和12（2030）年度の目標(0.0103ppm)を達成するなど、順調に推移しています。

この指標値は、光化学オキシダントの原因物質（窒素酸化物、揮発性有機化合物）との関係性が強く、本市では独自にこの指標を活用して4月から10月の日中の光化学オキシダント生成量を把握し、光化学オキシダント対策の効果をみています。

また、光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための国の指標（光化学オキシダント濃度8時間値の日最高値の年間99パーセンタイル値の3年平均値）についても併せて把握し、光化学オキシダント濃度の長期的な変化をみていきます。

※1 光化学スモッグ注意報が発令される4月から10月までの日中の光化学オキシダント生成量に着目して設定
各年度の実績は、直近3年分の平均値として算出

光化学オキシダント環境改善評価指標値について

▶ 詳しくはこちら



※2 国の指標について

▶ 詳しくはこちら



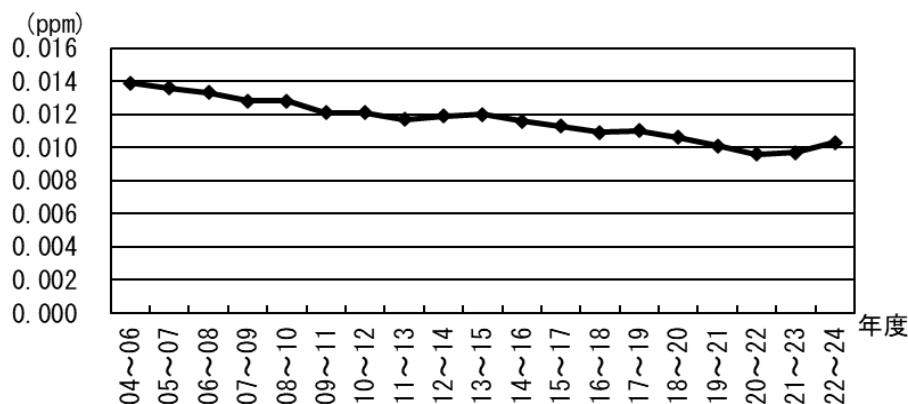
(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

大気

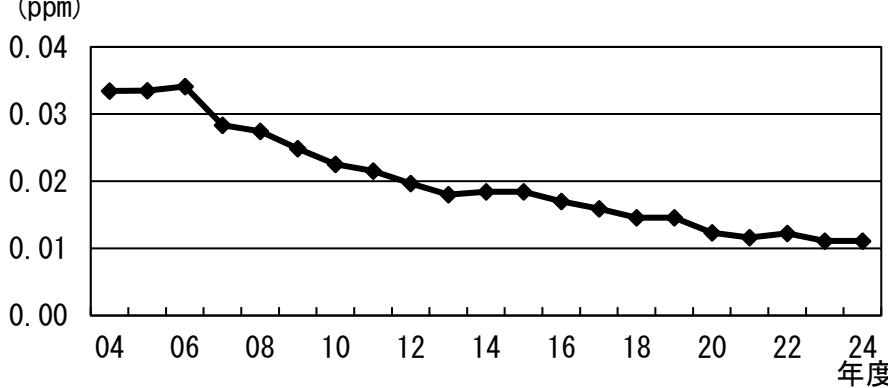
●光化学オキシダント環境改善評価指標値等の推移

光化学オキシダント環境改善評価指標値は、窒素酸化物と同様に低下傾向にあります。揮発性有機化合物（常時監視では非メタン炭化水素として測定）も長期的には低下傾向にありますが、近年は横ばいの傾向で推移しています。

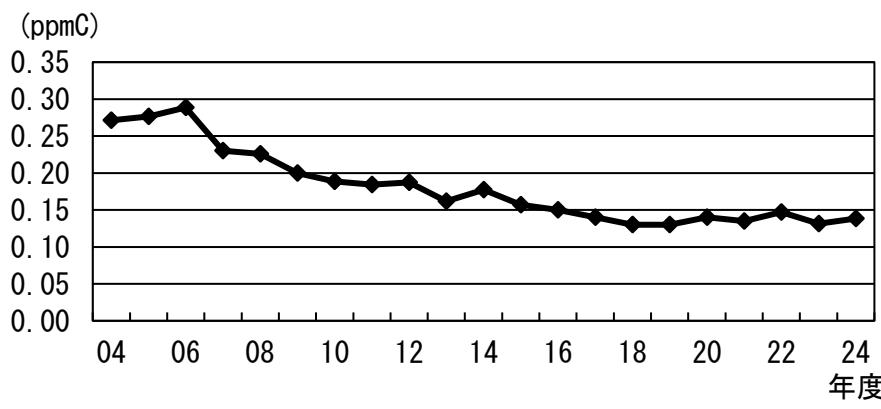
国の指標も長期的に横ばいの傾向で推移しています。



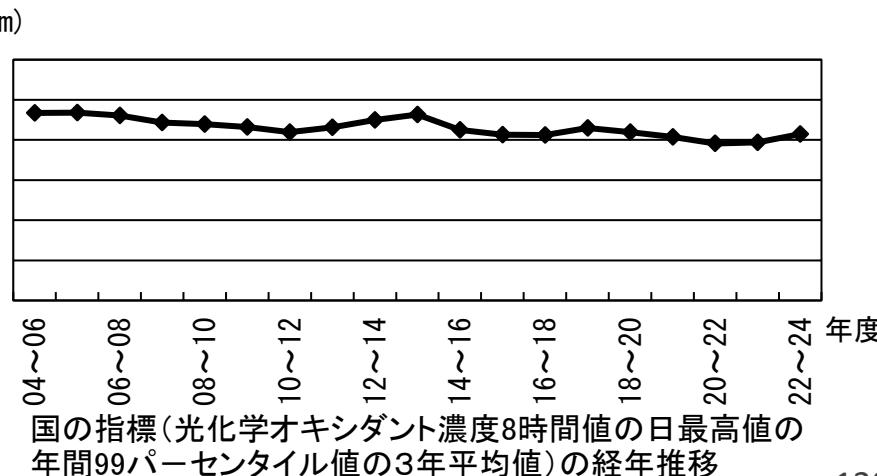
光化学オキシダント環境改善評価指標値(4~10月)の経年推移



窒素酸化物(一般局)の4~10月平均値の経年変化



非メタン炭化水素の4~10月平均値の経年変化



国の指標(光化学オキシダント濃度8時間値の日最高値の年間99パーセンタイル値の3年平均値)の経年推移

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

水 公共用水域（河川、海域）の水質調査地点

公共用水域（河川・海域）の水質を把握するため、河川12地点、海域3地点において、目標達成状況等の評価を行っています。



水系	番号	河川・地点名
多摩川水系	①	三沢川・一の橋
	②	五反田川・追分橋
	③	二ヶ領用水宿河原線・出会い橋
	④	二ヶ領本川・堰前橋
	⑤	平瀬川・平瀬橋(人道橋)
	⑥	二ヶ領用水円筒分水下流・今井仲橋
鶴見川水系	⑦	片平川・片平橋下
	⑧	麻生川・耕地橋
	⑨	真福寺川・水車橋前
	⑩	有馬川・五月橋
	⑪	渋川・渋川橋
	⑫	矢上川・矢上川橋

運河部のCOD調査地点

区分	番号	海域・地点名
運河部	1	京浜運河千鳥町
	2	東扇島防波堤西
	3	京浜運河扇町



(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



水環境の目標 河川のBOD及び運河部のCODの環境基準値適合

水環境の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
河川のBOD及び運河部のCODの環境基準値の適合地点の割合	100 %	100 %	100 %

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度の**河川のBOD**について、**12地点全てでBODの環境基準値に適合しました。**

また、**運河部のCOD**について、**3地点全てで環境基準値に適合しました。**

BOD（生物化学的酸素要求量）とは、水中の有機物が微生物によって分解される際に消費される酸素の量であり、河川の汚濁を測る代表的な指標です。この値が大きいほど水中に有機物等が多く、汚濁していることを示しています。

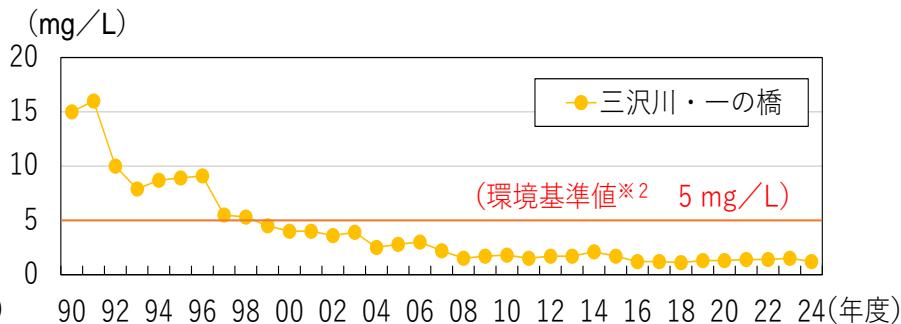
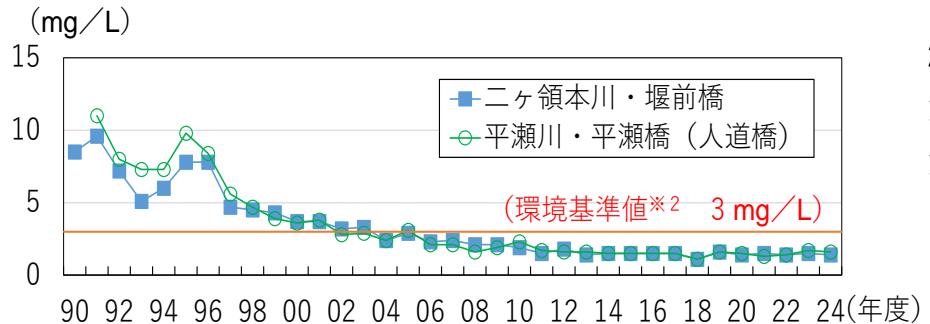
COD（化学的酸素要求量）とは、水中の有機物を酸化剤で酸化した際に消費される酸素の量であり、湖沼、海域の汚濁を測る代表的な指標です。この値が大きいほど水中に有機物等が多く、汚濁していることを示しています。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



● 河川のBODの推移

主な河川のBOD（75%水質値^{※1}）は、河川により若干の変動はあるもののほとんどが横ばいで推移しています。

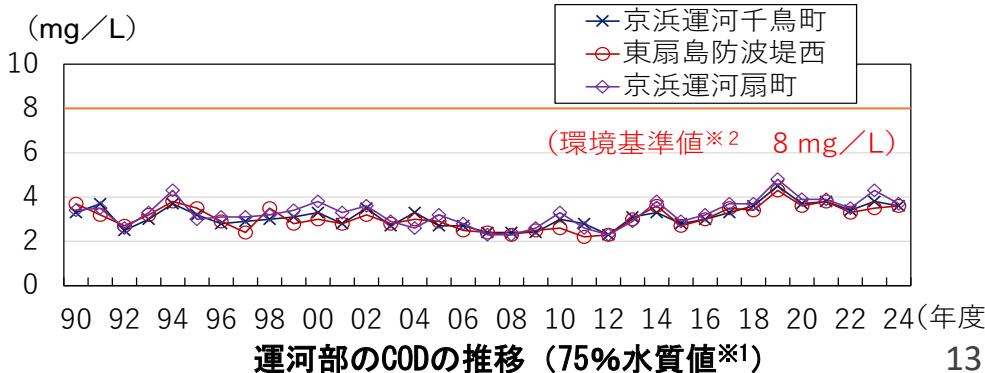


主な河川のBODの推移 (75%水質値^{※1})

BOD等の項目については、水域の利用目的に応じた類型ごとに環境基準値が定められており、河川は6類型に区分されています。市内河川はB、CまたはD類型が指定されており、類型によって環境基準が異なります。

● 運河部のCODの推移

主な運河部のCOD（75%水質値^{※1}）は、横ばい又は増加する傾向が見られています。



※1 年間の日間平均値の小さい方から75%に相当する値

※2 BOD、CODの環境基準値は、水域によって異なります。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



水環境の目標 「きれいな水」の指標魚種の生息地点の増加

水環境の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
「きれいな水」の指標魚種の生息地点の割合	75 %	100 %	100 %

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度は、調査した4地点※全てで「きれいな水」の指標魚種を確認しました。



水生生物調査地点

※ 市内12地点のうち、1年に4地点ずつ、3年で1巡するように調査をしています。

「きれいな水」の指標魚種

水質	非常にきれい	きれい	ややきれい
種名	ア布拉ハヤ ホトケドジョウ シマドジョウ属 (ビリング)	アユ メダカ ドジョウ カマツカ (マハゼ)	ギンブナ オイカワ モツゴ (ボラ)

備考 1 ()内の魚種は、汽水域、感潮域の魚種を示す。
2 「非常にきれい」又は「きれい」の魚種の生息が確認された地点を「きれいな水」の指標魚種の生息地点とする。

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等

水

●「きれいな水」の指標魚種の生息状況の推移

直近3年間の市内全12地点の調査では、11地点で指標となる魚種を確認しました。

河川の水生生物調査結果（きれいな水の指標魚種の確認状況）

水系	番号	河川名	地点名	調査年度	確認した魚類の種名
多摩川水系	1	三沢川	下の橋	2022	コイ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、アブラハヤ、マルタ、ウグイ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、スゴモロコ類、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、コクチバス、ヌマチチブ、カワヨシノボリ、スマウキゴリ、ウキゴリ、カムルチー
	2	五反田川	大道橋	2024	コイ、オイカワ、スゴモロコ類、ドジョウ、ドジョウ類、ナマズ
	3	二ヶ領本川	ひみず橋	2024	コイ、オイカワ、マルタ、ウグイ、ウグイ属の一種、カマツカ、コイ科の一種、ドジョウ、ドジョウ類
	4	二ヶ領用水宿河原線	東名高速下	2024	ギンブナ、オイカワ、マルタ、ウグイ、カマツカ、スゴモロコ類、コイ科の一種、ドジョウ、アユ、ヌマチチブ
	5	平瀬川	正安橋	2022	コイ、オイカワ、マルタ、ウグイ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、ホトケドジョウ、アユ、ヌマチチブ、スマウキゴリ、ウキゴリ
	6	二ヶ領用水円筒分水下流	今井上橋	2024	コイ、オイカワ、タモロコ、カマツカ、コイ科の一種、ドジョウ、ドジョウ類、ミナミメダカ、シマヨシノボリ、ウキゴリ
鶴見川水系	7	片平川	片平橋下	2023	ドジョウ、ドジョウ属の一種、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、メダカ、カワヨシノボリ
	8	麻生川	耕地橋	2023	コイ、オイカワ、カマツカ、ドジョウ、ナマズ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
	9	真福寺川	水車橋前	2023	オイカワ、ウグイ属の一種、ドジョウ、ドジョウ属の一種、ミナミメダカ、メダカ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ類
	10	有馬川	住吉橋	2023	ヌマチチブ、トウヨシノボリ類
	11	矢上川	日吉橋	2022	コイ、オイカワ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、カダヤシ、メダカ、ヌマチチブ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ
	12	渋川	八幡橋	2022	コイ、ギンブナ、フナ属の一種、カマツカ、カマツカ類、ドジョウ、ミナミメダカ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ類、スマウキゴリ、ウキゴリ

注 緑掛けされた魚種は「きれいな水」及び「非常にきれいな水」の指標魚種



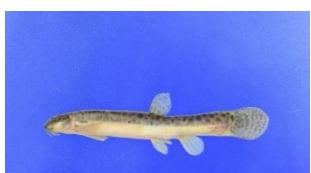
アユ



ホトケドジョウ
絶滅危惧IB類(EN)*



ミナミメダカ
絶滅危惧II類(VU)*



ドジョウ
準絶滅危惧(NT)*

* 【汽水・淡水魚類】環境省レッドリスト2020

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



化学物質対策の目標

市内のPRTR対象事業所から排出される化学物質の総排出量の維持又は低減

化学物質対策の成果指標

	基準年 2019年度(R1)	2023年度 (R5)実績	2029年度 (R11)目標
市内のPRTR対象事業所から排出される第一種指定化学物質の総排出量※	965 t (継続物質959t)	872 t (継続物質746t)	965 t以下 (継続物質959t)

※基準年度の数値は、令和3（2021）年3月時点で把握している排出量

※令和5（2023）年度の数値は、令和7（2025）年3月時点で把握している最新の排出量

※総排出量の経年推移はP. 26参照

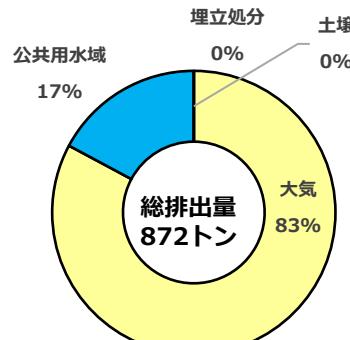
※継続物質は、令和5（2023）年度に対象物質の変更があったが、
目標設定時（令和元（2019）年度）から継続して対象となっている物質

●目標に向けた達成状況

令和5（2023）年度にPRTR対象事業所から排出された第一種指定化学物質の排出量は872トン（継続物質746t）で、令和元（2019）年度と比較して、約9.6%減少（継続物質では約22%減少）しています。

●化学物質総排出量の内訳

令和5（2023）年度の排出先の割合は、大気が83%、公共用水域が17%でした。排出量上位5物質とその主な排出先及び用途例は、右のとおりです。



令和5年度排出先の割合

順位	物質名	届出排出量 (トン/年)	主な排出先	用途例
1	ヘキサン	184	大気	溶剤、ガソリン成分等
2	トルエン	93	大気	接着剤溶剤、合成原料、ガソリン成分等
3	塩化メチル	87	大気	合成原料、溶剤等
4	キシレン	63	大気	塗料溶剤、合成原料、ガソリン成分等
5	シクロヘキサン	59	大気	ナイロン原料、有機溶剤、塗料

令和5年度排出量上位5物質とその主な排出先等

(7) 目標に向けた達成状況及び推移等



市民実感の目標 大気や水などの環境が良好であるという市民実感の向上

市民実感の成果指標

	基準年 2020年度(R2)	2024年度 (R6)実績	2030年度 (R12)目標
市内の空気や川、海のきれいさの満足度	52.9 % (2016～2020年度 平均値)	55.3 % (2020～2024年 度平均値)	55.0 % (2026～2030年 度平均値)

●目標に向けた達成状況

令和6（2024）年度の市内の空気や川、海のきれいさの満足度（過去5年間の平均値）は**55.3%**となり、令和12（2030）年度の目標を達成するなど、順調に推移しています。

※各年度の推移は第1章（26ページ）参照

2024年度調査結果（市民の空気や川、海のきれいさの満足度）

項目	回答(%)	項目	回答(%)
満足している	10.2	まあ満足している	45.8
少し不満である	23.8	不満である	11.3
わからない	6.3		

●市民実感の向上に向けた取組

市民の環境に関する満足度（市民の環境改善に対する実感）を向上していくため、リーディングプロジェクトとして「環境配慮意識の向上」等に関する取組を推進し、各種イベントや効果的な情報発信に取り組んでいます。
(詳しくは137ページ～140ページ)



つくろう！かわさき・空と水のミライ教室

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

リーディングプロジェクト

大気・水環境計画では、基本施策Ⅱの「環境配慮意識の向上」、「多様な主体との協働・連携」、「事業者の自主的な取組の促進」、「環境影響の未然防止」の中で最も関連する基本施策に対応する取組として、8つのリーディングプロジェクトを位置づけています。

基本 本 施 つ 策 の Ⅱ の 口 ジ エ ク ト

基本施策 Ⅱ-1 環境配慮意識 の向上

基本施策 Ⅱ-2 多様な主体との 協働・連携

基本施策 Ⅱ-3 事業者の自主的な 取組の促進

基本施策 Ⅱ-4 環境影響の 未然防止

- 1 水辺の親しみやすさ調査を活用した環境配慮意識の向上
- 2 環境シビックプライドの醸成による環境配慮行動の促進
- 3 市民創発型の地域環境改善に向けた「自分ごと化」の推進
- 4 市民参加型の大気を身近に感じる機会の創出
- 5 次世代自動車のインフラ環境整備に向けた事業者連携による取組
- 6 EVカーシェアリングを活用した交通行動変容に向けた取組
- 7 環境リスク評価を活用した化学物質管理の促進
- 8 新たな知見による光化学スモッグ発生抑制に向けた取組の推進

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

Ⅱ-1 環境配慮意識の向上

リーディングプロジェクト1 水辺の親しみやすさ調査を活用した環境配慮意識の向上

市民参加型のイベントや環境教育で「水辺の親しみやすさ調査」を行い、市民が河川にふれあうきっかけをつくります。市民が行った調査結果を活用し、水辺に親しみやすい地点の情報等を発信することにより、身近な水辺への関心を高めていきます。この取組を推進することにより、市民が身近な河川を知り、河川を汚さない意識を持つなどの環境配慮意識の向上を図ります。

- ◆ 市民が水辺に親しむ機会として、**夏休み水環境体験教室を、川編（二ヶ領用水）を4回、湧水地編（黒川よこみね緑地）を4回実施**し、水環境改善の歴史について学ぶとともに、水辺の親しみやすさ調査や水辺の生き物観察を行いました。
- ◆ SNSにより、水辺の親しみやすさ調査の結果を活用した、市内の水辺情報を発信しました。

▶ 詳しくはこちら



夏休み水環境体験教室

環境配慮意識の向上のリーディングプロジェクト関連取組

○水辺に親しめる河川環境整備の推進

渋川環境整備については、八幡橋～石神橋間の右岸159mのパラペットの整備に着手しました。



渋川「生物の水辺ゾーン」整備風景

○水辺に親しむイベント等の実施（水辺の楽校）

川崎市域にある3校の水辺の楽校へ合計31回の自然体験活動の支援を行いました。また、水たまキッズ事業の中で、上流体験を実施しました。



水辺の楽校

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

Ⅱ-1 環境配慮意識の向上

リーディングプロジェクト2 環境シビックプライドの醸成による環境配慮行動の促進

環境に関する教育を受け始める小学生に対する出前授業の充実や、公害の歴史に関する情報の発信など、本市が市民・事業者・行政の連携により環境改善を図ってきた歴史や、現在、良好となってきた本市の大気や水などの環境について伝える機会を増やすことにより、環境シビックプライドの醸成を図ります。

- ◆ **市内の小学生等に対し8回出前授業を実施**し、現在良好になってきた川崎市の大気・水環境についてデータ等を用いて伝えるとともに、公害の歴史や、環境改善に向けた取組について伝えました。
- ◆ 市制100周年事業として「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」を市内4か所で実施しました。



出前授業



企画展

環境配慮意識の向上のリーディングプロジェクト関連取組

○水辺の生きものに関する動画の作成

湧水地や多摩川河口干潟での水辺の様子を通して、市内の水辺の生きものや水環境について知ることができる広報動画を2本作成し、YouTubeで公開をしました。水辺の生きもの動画(湧水地編)



○「エコシティたかつ」推進事業の取組

学校ビオトープ等を活用した環境学習、水・緑・生き物の調査等を通し身近な森の再生過程を学習する機会として、区内の小学校等へ3回環境学習支援を行いました。



ビオトープでの環境学習支援

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

II-2 多様な主体との協働・連携

リーディングプロジェクト3 市民創発型の地域環境改善に向けた「自分ごと化」の推進

親子向け環境学習や施設見学と組み合わせ、様々な年代の市民や事業者など多様な主体と連携して行うワークショップ等を通じて、身近な環境の取組や環境の状況をわかりやすく伝えることにより、大気や水などの環境の「自分ごと化」を図るとともに、市民目線に立った市民創発による地域環境の改善を実施します。

- ◆ **市民や事業者と連携したワークショップを8回実施しました。** 「つくろう！かわさき・空と水のミライ教室」では未来を担う子供たちを対象とし、大気・水環境に関する実験や、リサイクル品を使った工作体験をとおして、空と水、未来の環境について一緒に考えました。
- ◆ 川崎市地球温暖化防止活動推進センターと連携し、大気・水環境について考えるワークショップを開催しました。



つくろう！かわさき・空と水のミライ教室

多様な主体等の協働・連携のリーディングプロジェクト関連取組

○緑のボランティアなどの活動支援

公園緑地協会を通じて、緑のボランティア団体に対し、技術の向上や知識の会得のため、出前講座を実施しました。



出前講座

○ごみの減量化・資源化の推進に向けた取組

ごみの減量化・資源化を推進するため、ごみゼロカフェを3回実施し、出前ごみスクールについては、市内の小学校で146回開催しました。



ごみゼロカフェ

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

II-2 多様な主体との協働・連携

リーディングプロジェクト4 市民参加型の大気を身近に感じる機会の創出

大気のきれいさを目視で感覚的に理解できる方法として視程調査を市民に周知します。視程調査への参画を促すため、出前授業のテーマとして紹介したり、展望スポットへ周知パネルを設置するなど、効果的な情報発信を行います。また、市民の調査結果を市が収集・解析し、大気のきれいさと視程の関係性を明らかにしていくなど、調査ガイドブックの充実を図ることにより、大気を身近に感じる機会を創出します。

- ◆ 市内の小学生等を対象にして、**視程調査を紹介するワークショップや出前授業を4回実施しました。**
- ◆ 視程調査ガイドブックを活用し、市民への普及広報を実施しました。



子ども環境ワークショップ



視程調査ガイドブック



▶ 詳しくはこちら 

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

II-3 事業者の自主的な取組の促進

リーディングプロジェクト5

次世代自動車のインフラ環境整備に向けた事業者連携による取組

次世代自動車の普及を促進するため、充電インフラや水素ステーションの整備促進を事業者との連携により実施するとともに、インフラ整備に係る優遇措置等の検討を行います。

- ◆ 公共用の充電設備の整備を目的に、充電サービス事業者と連携し、公共施設（7施設）にEV用充電設備を設置し、供用を開始しました。
- ◆ 共同住宅へのEV普及に向けた共同住宅向けEV用充電設備の補助制度を運用し、1件（コンセント：5基）の補助を実施しました。



公共用のEV用充電設備
(川崎市男女共同参画センター)

リーディングプロジェクト6

EVカーシェアリングを活用した交通行動変容に向けた取組

人が集まりやすい場所や低未利用地を活用したEVカーシェアリングの促進や、社用車等のEVカーシェアリングの促進等を通じて、車両の購入時やカーシェアリング利用時のEV選択率の向上及び環境意識の醸成を図ります。

- ◆ 民間企業と連携したEVカーシェアリング実証実験について、拠点を1箇所増設しました。
- ◆ 令和4（2022）年度から建築物環境配慮制度に充電設備の設置等について加点する項目を設け、引き続きEVの普及促進に取り組みました。



EVカーシェアリングステーション

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

Ⅱ-4 環境影響の未然防止

リーディングプロジェクト7 環境リスク評価を活用した化学物質管理の促進

化学物質による環境影響を未然に防止するため、化学物質の環境リスクを正しく理解するとともに、事業者による環境リスクの低減に向けた化学物質の適正管理を促進します。

- ◆ 自主管理優先物質を取り扱う4事業者にフォローアップを行い、取り扱う自主管理優先物質の環境リスクに関する情報を提供するとともに、事業者における排出抑制手法等の環境対策を聴取し、好事例をとりまとめてホームページ等で周知しました。
- ◆ 川崎市環境リスク評価ガイドラインに基づき、6物質の環境リスク評価を実施しました。

化学物質による「環境リスク」とは、化学物質が環境を経由して人の健康や動植物の生息に悪い影響を及ぼす恐れのある可能性をいいます。

「環境リスク」を概念的に式で表すと、右図のようになります。



自主管理優先物質に選定した物質一覧

	排出抑制物質	なし
自主管理優先物質	排出抑制物質	なし
	排出管理物質	①アクリル酸及びその水溶性塩 ②エチレンオキシド ③1, 2-エポキシプロパン ④クロム及び三価クロム化合物 ⑤四塩化炭素 ⑥ナフタレン



▶ 詳しくはこちら

化学物質の「量」と「質」に着目した取組について

化学物質は、様々な原材料や製品として流通していますが、規制される化学物質は一部で、適正に管理されなければ、人の健康等に対しまじない影響を与えるおそれがあります。このような影響の未然防止のため、本市では、化学物質の排出量の削減目標を定め、化学物質の適正管理に係る取組を推進してきました。

現状

- 本市は、化学工業などの化学物質を取り扱う事業所が多く集積
- 化学物質の「排出量」は、事業者の方の取組等により大幅に削減
- 化学物質が発する「環境リスク」は、小さ化をめざす流れ
- 「環境リスク」は、化学物質のリスクを考慮して、その健康や環境への危険性に対する認識を活性化する取り組みです。
- 川崎市大気・水環境計画(令和4年3月、川崎市)における化学物質対策について、今までの「排出量」に着目した取組に加え、「環境リスク」(量×質)に着目して取組を推進します。

対策

川崎市大気・水環境計画(令和4年3月、川崎市)における化学物質対策について、今までの「排出量」に着目した取組に加え、「環境リスク」(量×質)に着目して取組を推進します。

川崎市大気・水環境計画は、「環境リスク」を活用した化学物質管理の促進を資源循環の視点から取り組んでいます。

これから化学物質対策 ①排出量(量) + ②環境リスク(量と質)

①排出量(量) — これまでの取組 —

令和元(2019)年度レベルのPRTR総排出量の維持又は低減を目指します

- 市内の化粧品の粗排水量は、大幅に削減されています。(令和3年度: 292.7t → R1年度: 165.5t, 67%削減)
- これまでの排出量基準に向けた取組の継続によりPRTR粗排水量のR1(2019)年度レベルの維持又は低減を目指します。

②環境リスク(量と質) —

基準年度 基準年度

Chemical	Standard Year (t)	Baseline Year (t)	Reduction (%)
物質A	100	60	40
物質B	80	50	37.5
物質C	60	40	33.3

パンフレット

(8) リーディングプロジェクトの実施状況

II-4 環境影響の未然防止

リーディングプロジェクト8

新たな知見による光化学スモッグ発生抑制に向けた取組の推進

光化学オキシダントの削減を効果的に行うため、市内及び周辺自治体とどのVOC成分が光化学オキシダントの生成に大きく影響しているかを把握するための調査等を行います。また、原因物質の発生状況等を把握し、その知見を活用することで市民や事業者の自主的なVOC排出削減に向けた取組を促進して、光化学スモッグ発生抑制に向けた取組を推進します。

- ◆ 令和6（2024）年度は、光化学オキシダント（Ox）が高濃度となった際に大気環境中のVOCを調査し、Ox生成に大きく寄与するVOC成分の把握に努めるとともに、調査結果を踏まえ事業者への情報提供を実施しました。

2024年度実施内容

調査



Ox高濃度日に大気中のVOCのサンプリング実施

解析



Ox生成に大きく寄与するVOC成分について解析

取組の促進



事業者へ情報提供等を実施

2025年度以降

大気環境中のVOC調査・解析を継続

取組の促進

調査結果を周知するなどにより、自主的取組の促進につなげる

(9) 基本施策ごとの取組状況

I-1 大気や水などの環境保全

環境基準の達成・維持などのため、大気汚染防止法や水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、土壤汚染対策法などの法律や市条例に基づく事業所等の監視・指導や環境モニタリング、苦情相談への対応等に引き続き取り組むとともに、緊急時等に適切な対応を行います。



施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
①大気環境に係る事業所等の監視・指導	大気環境に係る法律や市条例等に基づく立入調査	立入調査件数	立入調査 35件
	大気環境に係る法律や市条例等に基づく届出審査・指導	届出審査件数	届出審査 165件
	石綿(アスベスト)飛散防止対策に係る届出等の審査・指導	立入調査件数 届出審査件数	立入調査 959件 届出審査 11,964件
②水環境に係る事業所等の監視・指導	水環境に係る法律や市条例等に基づく立入調査	立入調査件数	立入調査 100件
	水環境に係る法律や市条例等に基づく届出審査・指導	届出審査件数	届出審査 261件
	土壤汚染に係る届出等の審査・指導	届出審査件数	届出審査 336件

(9) 基本施策ごとの取組状況

I-1 大気や水などの環境保全

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容等	2024年度(R6)実績
③大気環境に係るモニタリングの実施	大気環境の監視	NO ₂ 、PM2.5、SPM等の環境基準の達成状況	光化学オキシダントを除く全項目について、全地点で環境基準達成、指針値に適合
	光化学オキシダントに係る監視	NMHC等の濃度等	光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針値 98%適合
④水環境に係るモニタリングの実施	河川、海域の水質調査	・水質環境基準等 ・河川流量の状況	河川BOD 100%適合 運河部COD 100%適合 沖合部COD 0%適合 健康項目 100%適合 河川流量は概ね横ばいで推移
	地下水質の監視	・地下水環境基準等	29地点中29地点で環境基準を達成 (過去の調査で汚染が確認され、継続して調査を行っている地点を除く)
	精密水準測量による地盤沈下量の監視	地下水位の観測地点数	11地点

(9) 基本施策ごとの取組状況

I-1 大気や水などの環境保全

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容等	2024年度(R6)実績
⑤苦情相談及び緊急時等への対応	騒音、振動に係る苦情相談対応	苦情受付件数	<ul style="list-style-type: none"> 騒音: 382件 振動: 114件
	悪臭、ばい煙、粉じん等に係る苦情相談対応	臨海部パトロール回数	5回
	事故時の対応	取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> 原因者へ再発防止に向けた指導を実施(工場・事業場) 関係機関と連携した現地調査等を行い、54件に対応(水質事故) 2件の水質事故及び苦情について原因究明のための調査を実施
	災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 協定の件数 取組内容の実績 	1件 有害物質等の漏洩・流出に迅速に対応できるよう取組を実施
⑥大気や水などの生活環境保全に係る取組の実施	水処理センターの高度処理化の推進	高度処理普及率	79%
	合流式下水道の改善の推進	合流改善率	74%
	下水道利用の促進	下水道普及率	99.6%
	河川改修事業の推進	平瀬川支川の改修率	73%

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-1 環境配慮意識の向上



市民の環境配慮意識の向上を図り、環境配慮行動の促進による環境負荷の低減をめざします。また、情報発信の手法や内容を世代ごとに分かりやすく整理し、効果的な情報発信や環境教育を推進するなど、情報を適切に伝えることで実感の向上を図ります。

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
①大気や水辺に親しむ取組の推進	水辺の親しみやすさ調査を活用した環境配慮意識の向上 【リーディングプロジェクト1】	イベント等における調査の実施回数	9回 (詳細はLP1の実施状況参照)
	水辺に親しめる河川環境整備の推進	渋川環境整備工事進捗率	80%
	水環境に係る調査及び普及啓発(河川の生物調査など)	モニタリング調査地点数	23地点
	大気を身近に感じる環境調査等の取組の推進	取組内容の実績	ワークショップ等において視程調査について周知し、市民への参加促進を実施

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-1 環境配慮意識の向上

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
②環境教育・環境学習の推進	環境シビックプライドの醸成による環境配慮行動の促進【リーディングプロジェクト2】	・出前授業等の実施回数 ・アンケート結果	8回 (詳細はLP2の実施状況参照)
	水辺に親しむイベント等の実施	イベント等開催数	22回
	地域環境リーダーの育成	地域環境リーダー数	407人(累計)
	「エコシティたかつ」推進事業の取組	環境学習支援回数	3回
③効果的な情報発信の推進	多様な世代に合わせた情報発信	取組内容の実績	環境セミナーの開催やSNSによる情報発信を実施
	地域ごとの取組や環境データの情報発信	取組内容の実績	各種環境データを地域ごと・水域ごとにとりまとめ、HP等で発信
	情報発信等による次世代自動車の普及促進	低公害車導入補助件数	1件(4台)
	自転車の活用に向けた取組の推進	取組内容の実績	・シェアサイクルポートの設置拡充を実施 ・自転車に係るキャンペーン等で広報啓発を実施

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-2 多様な主体との協働・連携

市民が大気や水などの環境について関心を持つよう、市民や市民団体と協働・連携する取組を推進します。また、光化学オキシダント、微小粒子状物質（PM2.5）等の大気汚染や海域の水質などの広域的な課題を解決するため、周辺自治体との広域連携や、事業者・学術機関との連携を強化します。



施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
①市民協働・連携の取組	市民創発型の地域環境改善に向けた「自分ごと化」の推進【リーディングプロジェクト3】	ワークショップ等の実施回数	8回 (詳細はLP3の実施状況参照)
	市民参加型の大気を感じる機会の創出【リーディングプロジェクト4】	視程調査周知活動の実施回数	4回 (詳細はLP4の実施状況参照)
	緑のボランティアなどの活動支援	地域緑化推進地区認定数	37箇所
	ごみの減量化・資源化の推進に向けた取組	ごみゼロカフェ開催数	3回

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-2 多様な主体との協働・連携

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
②広域連携等の推進	他自治体連携による取組	取組内容の実績	光化学オキシダント対策や自動車公害対策等に関して、近隣自治体と連携した調査・研究や動画等による普及啓発を実施
	国、自治体等が連携した東京湾の環境調査	東京湾一斉調査の参加団体数	23団体
	新多摩川プランにおける市民や流域自治体との協働・連携	協働・連携によるイベント等の実施	1回
③優れた環境技術の活用による国際貢献に向けた連携の推進	国際的な環境保全活動への支援・連携	海外自治体とのプロジェクト数	3件
	環境関連ビジネスの創出及び海外展開の支援	川崎国際環境技術展等でのビジネスマッチング数	842件
		グリーンイノベーションクラスターのプロジェクトの年間件数	9件

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-3 事業者の自主的取組の促進

環境負荷の更なる低減を図るため、事業者の自主的な取組を促進します。また、率先して環境配慮に取り組む事業者を支援します。



施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
①交通環境配慮行動の促進	次世代自動車のインフラ環境整備に向けた事業者連携による取組 【リーディングプロジェクト5】	取組内容の実績	公共用の充電設備の整備を目的に、充電サービス事業者と連携し、公共施設(7施設)にEV用充電設備を設置し、供用を開始 (詳細はLP5の実施状況参照)
	EVカーシェアリングを活用した交通行動変容に向けた取組 【リーディングプロジェクト6】	取組内容の実績	民間企業と連携したEVカーシェアリング実証実験について、拠点を1箇所増設 (詳細はLP6の実施状況参照)
	市バス車両の脱炭素化に向けた取組の推進	ハイブリッドバスの市バス車両に占める割合	29.4%
	エコ運搬制度の運用	要請件数	16,168件

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-3 事業者の自主的取組の促進

施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
②事業者の自主的な取組の支援	工場・事業場の自主的取組を促す取組の推進(環境行動事業所認定制度の運用)	環境行動事業所認定数	32件(年度末時点)
	揮発性有機化合物(VOC)等排出削減に向けた取組の推進(事業者等の排出状況の把握及び自主的削減取組の支援)	VOC削減に向けた支援及び普及啓発を行った事業者数	・リーフレット、HPによる情報発信(セミナーでのVOC削減の啓発:278人等)
	中小企業への円滑な資金供給等の推進	融資実績	41,713百万円
	脱炭素化に向けたエコ化支援の推進	エコ化支援補助実施件数	180件(累計)
③事業者との情報共有の促進	事業者交流の取組(事業者との連絡会など)	取組内容の実績	事業者・行政環境研究会において若手社員を中心としたワークショップを開催し、情報発信方法や自主的取組について検討した。
	事業者等のネットワークの機能強化に向けた取組の実施	取組内容の実績	川崎国際環境技術展等の様々な機会を通じて、事業者との情報共有を促進

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-4 環境影響の未然防止

人の健康や環境への悪影響を未然に防ぐことをめざすため、環境影響を低減する取組を推進します。また、市民や事業者がお互い環境に対する正しい認識を持てるよう情報共有を図ります。



施策	具体的取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
①化学物質の適正管理と理解の促進	環境リスク評価を活用した化学物質管理の促進 【リーディングプロジェクト7】	環境リスク評価等の実施状況	自主管理委優先物質を取扱う4事業所にフォローアップし、好事例をとりまとめてホームページに公表 (LP7の実施状況参照)
	環境・リスクコミュニケーションの促進	セミナー開催数	2件
②環境影響の低減に向けた取組	新たな知見による光化学スモッグ発生抑制取組の推進 【リーディングプロジェクト8】	事業者の自主的な排出削減を促進する取組の実施件数	10件
	環境影響評価の推進	環境影響評価手続実施件数	公告 42件

(9) 基本施策ごとの取組状況

II-4 環境影響の未然防止

施策	具体的な取組	主な活動量・取組内容	2024年度(R6)実績
②環境影響の低減に向けた取組	交差点などにおける渋滞緩和対策の推進	取組内容の実績	ガス橋交差点の渋滞対策(右折車線設置等)を完了させ、対策箇所5箇所すべての対策を完了
	街路樹の適正な維持管理の推進	取組内容の実績	・街路樹の剪定や除草等を適切に実施 ・サクラ・ユリノキの診断サイクルに基づき樹木診断を実施 ・北見方207号線ほかの樹木更新を実施
③環境影響の低減に向けた調査研究	大気環境に係る調査研究(光化学オキシダントやPM2.5等に係る調査研究など)	PM2.5の実態調査件数	・PM2.5の実態調査 4回(3地点) ・光化学オキシダントに関する調査11回
	水環境に係る調査研究(公共用水域における水質改善に係る調査研究など)	市内の河川、海域及び親水施設等の水質や水生生物の生息状況調査の件数	河川親水施設調査 1件 河川の生物調査 1件 海域生物調査:1件 東扇島東公園アマモ・アサリ生育生息状況調査 1件 多摩川河口干潟調査 1件
	化学物質に係る調査研究(環境リスク評価など)	調査・研究件数	国及び他自治体等との共同調査・研究1件

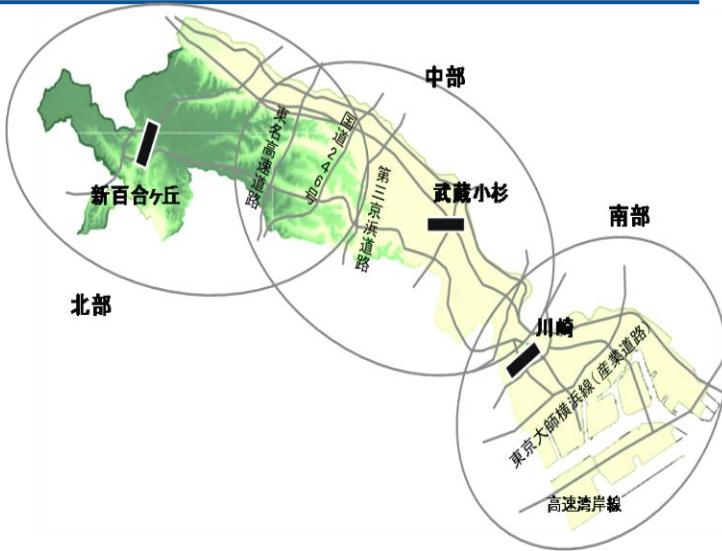
(10) 地域ごとの取組状況

本市の都市構造、土地利用の状況は、地域ごとに特徴があり、その特徴と市民の生活行動圏に応じて本市を大きく分けると、南部（臨海部）・中部（内陸部）・北部（丘陵部）の3つに分類することができます。

これらの地域の特性を踏まえ、地域ごとの大気や水などの環境に係る取組等を紹介します。

(ア) 南部（臨海部）・・・主に川崎区

令和6（2024）年11月から令和7（2025）年2月にかけて、産業道路を利用する事業者に対し、低公害車優先使用やエコドライブなど環境にやさしい行動に取り組むよう呼び掛ける「産業道路クリーンライン化キャンペーン」を実施しました。



大気・水環境計画における本市の地域区分



市バス等の車内にキャンペーンのポスターを掲出

▶ 詳しくはこちら



(10) 地域ごとの取組状況

(イ) 中部（内陸部）・・・主に幸区、中原区、高津区

多摩川とさまざまな形で触れ合うことにより、多摩川の水質や自然環境、防災等について興味や関心を深める機会として催される「夏休み多摩川教室」に出展しました。



川の中で生きもの探し



顕微鏡で生きもの観察



多摩川で採れた生きもの



▶ 詳しくはこちら 

(ウ) 北部（丘陵部）・・・主に宮前区、多摩区、麻生区

宅配便の再配達の抑制に向けて、民間事業者との連携により宮前、多摩、麻生区役所を含む計4つの区役所にオープン型宅配ボックスを設置、運用しています。貨物車の走行による大気汚染物質の排出を削減することで、大気環境の改善と脱炭素化へ寄与しています。



オープン型宅配ボックス(麻生区役所)



▶ 詳しくはこちら 

(11) 令和6年度の進捗状況

●リーディングプロジェクトの進捗状況

	リーディングプロジェクト	R6(2024)取組内容
1	水辺の親しみやすさ調査を活用した環境配慮意識の向上	夏休み水環境体験教室等の実施
2	環境シビックプライドの醸成による環境配慮行動の促進	公害の歴史、大気や水などの環境に関する市内の小学校への出前授業の実施
3	市民創発型の地域環境改善に向けた「自分ごと化」の推進	川崎の公害の歴史から、大気環境や水環境の未来について考えるワークショップ等の実施
4	市民参加型の大気を身近に感じる機会の創出	小学生を対象とした視程調査の実施や、視程調査ガイドブックを活用した普及啓発の実施
5	次世代自動車のインフラ環境整備に向けた事業者連携による取組	充電サービス事業者と連携し、公共施設にEV用充電設備を設置し、供用を開始
6	EVカーシェアリングを活用した交通行動変容に向けた取組	EVカーシェア実証実験の拠点を増設
7	環境リスク評価を活用した化学物質管理の促進	自主管理委優先物質を取扱う4事業所にフォローアップし、好事例をとりまとめてホームページに公表
8	新たな知見による光化学スモッグ発生抑制に向けた取組の推進	光化学オキシダント原因物質の調査・研究や事業者への普及啓発等を実施

令和6（2024）年度は、夏休み水環境体験教室や小学校への出前授業、市民や若者を対象としたワークショップ等の体験型のイベントの開催、民間企業と連携したEVカーシェア実証実験の取組など、市民や事業者と連携・協力・参加を促進する取組の他、環境リスク評価制度や光化学オキシダントに関する調査研究等の環境影響の未然防止に関する取組等のリーディングプロジェクトを推進しました。

(11) 令和6年度の進捗状況

●各目標の進捗状況

大気環境の成果指標の進捗状況

	R12(2030) 目標	R6(2024) 実績	要因
二酸化窒素の環境基準下限値達成局割合	77.8%	88.9% (達成)	法や条例に基づく規制による工場・事業場等の発生源対策や、自動車等の移動発生源対策等の取組が、遠藤町自動車排出ガス測定局で初めて下限値を達成したなどの市内の二酸化窒素濃度の低減に寄与しました。
PM2.5の環境基準の達成維持	100%	100% (達成)	法や条例に基づく規制による工場・事業場等の発生源対策や、自動車等の移動発生源対策等の取組が、市内のPM2.5濃度の低減につながりました。
光化学スモッグ注意報発令0日	0日	9日 (未達成)	光化学オキシダントの生成は、気象要因による影響を受けやすく、また、生成過程も複雑で未解明な部分があるため、各種指標を活用して改善に向けた取組を進めていきます。
光化学オキシダント高濃度の低減	0.0103 ppm	0.0103ppm (達成)	原因物質の発生源となる事業者や市民等の民生部門への普及啓発や、事業者の自主的な取組の促進など、改善に向けた取組を進めていきます。

令和6（2024）年度の光化学スモッグ注意報発令日数については、目標の達成には至つていませんが、光化学オキシダントの原因物質の一つである二酸化窒素の環境基準下限値達成局割合を初めとする、他の成果指標は順調に推移するなど、令和12（2030）年度の目標の達成に向けて一定の進捗がありました。

(11) 令和6年度の進捗状況

水環境の成果指標の進捗状況

	R12（2030） 目標	R6（2024） 実績	要因
河川のBOD及び運河部のCODの環境基準値の適合地点の割合	100%	100% (達成)	法や条例に基づく規制による工場・事業場等の発生源対策や、生活排水対策等の取組が、河川や運河部の水質改善に寄与しました。
「きれいな水」の指標魚種の生息地点の割合	100%	100% (達成)	河川の水質改善や護岸整備等の対策が、生物生息環境の維持に寄与しました。

令和6（2024）年度は、全ての成果指標において**目標を達成**するなど、令和12（2030）年度の目標の達成に向けて進捗がありました。

化学物質対策の成果指標の進捗状況

	R12（2030） 目標	R5（2023） ^{※1} 実績	要因
市内のPRTR対象事業所から排出される第一種指定化学物質の総排出量	965 t以下 (継続物質 ^{※2} 959t)	872 t (達成) 継続物質746t (達成)	環境リスク評価を活用した事業者の自主管理につながる普及啓発等の取組が、市内のPRTR対象事業所から排出される化学物質の総排出量の低減に寄与しました。

令和5（2023）年度の実績は、成果指標の**目標を達成**するなど、令和12（2030）年度の目標の達成に向けて進捗がありました。

※1 令和5（2023）年度の数値は、令和7（2025）年3月時点で把握している最新の排出量

※2 令和5年度に対象物質の変更があったが、目標設定時（令和元（2019）年度）から継続して対象となっている物質

(11) 令和6年度の進捗状況

市民実感の成果指標の進捗状況

	R12（2030） 目標	R6（2024） 実績	要因
市内の空気や川、 海のきれいさの 満足度	55.0%	55.3% (達成)	小学校への出前教室や水環境体験教室、大気環境や水環境に関するワークショップ等により、身近な環境に親しむ機会を創出することで、市民の環境に対する満足度の向上に寄与しました。

令和6（2024）年度の実績は、成果指標の**目標を達成**するなど、令和12（2030）年度の目標の達成に向けて進捗がありました。

●総括

大気環境の一部では、令和12（2030）年度の目標の達成に至っていない成果指標もありますが、多くの成果指標は基準年と比較して順調に推移しており、令和12（2030）年度の目標を達成している成果指標もあることから、大気・水環境計画の目標の達成に向けて一定の進捗がありました。

今後もリーディングプロジェクトをはじめとする、大気・水環境計画に基づく取組を着実に推進することで、施策目標に係る成果指標の達成をめざしていきます。